



アジア展望

北陸の視点



北陸AJEC（北陸環
日本海経済交流促進協議
会）は二〇二二年、設立
二十周年を迎えた。名称
通り環日本海地域を対象
に活動してきたが、二十
周年を機に活動範囲を東
南アジア諸国連合（AS
EAN）にまで拡大し
た。企業の関心が中国と
同等、それ以上になった
のを踏まえた。

北陸の企業がASEAN
Nに関心を強める中、北
東アジアを冠した北東ア
シア学会（旧環日本海学
会）北東アジア研究交流
ネットワーク（NEAS
E-NET）の総会に出
席した。いずれも北東ア
シアの発展に寄与するこ
とを目的にしている。

「環日本海」という呼
称に海外の抵抗があるた
め「北東アジア」を名乗
るが、実質は日本海を取
り巻く地域、国が対象。
北東アジア経済圏や環日
本海経済圏など局地的な

寺尾重資

北東アジア地域と北陸

経済圏を創出しようと取
り組まれた時期が過去に
あったが、挫折した。

経済圏、共同体は実現
できなかったが、中国は
経済大国になり、韓国は
海外展開を高め、ロシア
は極東ロシアを太平洋に
向けた窓口と位置付け、
それぞれ存在感を増し
た。日本との関係も深め
た。

NEASE-NETの半は太平洋を向いてい
る。北陸から見る。「環日本海諸国」地
域のネットワークと言
現できるか」とコメン
トを求められた。「制度
的統合は無理だし、北陸
がASEANを含め多角
的な地域との経済交流を
進める際に逆に障害にも
なる」とした一方、「北
東アジアのくくりがいら
ない」という議論がある
が、日本海を取り巻く地
域は大きな可能性を占
め、東アジアが世界経済
の極となる中、存在が重
要になる」と指摘。さら
に「日本海を通じた物流
は大きな流れであり、日
本海を介した経済交流連
携は必要」と答えた。

てらお・じゅじ 1974（昭和49）年上
智大卒。北陸電力入社後、97年北陸経済連合会
（北経連）理事事務局長、2003年同専門部
長、05年同常務理事、北陸AJEC（北陸環日
本海経済交流促進協議会）常務理事事務局長。
11年北東アジア学会理事。金沢市出身。64歳。